旧陸軍施設に関する研究
—連隊本部および将校会議所を中心として—

K01082　長谷川晃雄

1．研究の背景と目的

近代は西洋文化の流入とともに新しいビルディングタイプの発生が顕著な時代であった。そういった建築の計画学的研究は近代から現代を通じて試みが為されてきた。

陸軍施設の集合体としての駐屯地は都市的といってもいいほどの規模を有し、又、都市における影響も甚大であったことは自明の事実である。また、現在でも陸上自衛隊駐屯地や陸軍駐屯地跡を中心として膨大な量の陸軍施設が残されており、文化財として指定されているものも少なくないにも関わらず、近年まで総合的な評価は為されておらず、最近になって漸く一部の研究者によって分析・研究の対象とされ始めた。その原因として、戦後半世紀を経て、建築史研究の主力が戦争を対象化できる年代の、より若い研究者達へと移行したことが挙げられる。

本研究では『連隊本部』『将校会議所』について実地調査による復原的考察を行い、陸軍施設における機能に応じた建築的特徴を明らかにすることを目的とする。

2．研究方法

本研究は、現在、芝浦工業大学建築史研究室で継続的に行われている、陸軍遺構の歴史的評価を目的とした慶応大学との合同調査に参加したものである。平成１４～１６年に委託業者によって先行して行われた耐震性や法規的側面などの構造的分析を中心とした調査が、技術的考察が中心であることを考慮し、復原を主目的とした歴史的考察を行う。調査は陸上自衛隊の、青森、高田、福知山、の３箇所の駐屯地を対象とし、現地に赴き痕跡等を調べるとともに、可能な限り現存する関係資料を収集し、建物の歴史的変遷を主題とした、復原的考察を行う。さらに、これに前年度調査の信太山、都城及び金沢駐屯地を加え、類似施設との比較を通して諸施設の意匠的、構造的特徴を明らかにする。

3．　将校と集会所

3－1．連隊本部と将校会議所

将校会議所の発生過程ははっきりとしていないもののその利用主体が将校団であることなどから、明治２０年頃の、同団体の形成と同時期であり、これは偕行社が半官組織としての性格を強めていく時期と符号する。

「軍隊内務書」によれば、連隊本部は記録文章の作成や外部との連絡を主要任務とし、連隊の管理運営を担う部署であったのに対し、将校会議所は一般的には将校の修養施設であったといわれているが、指揮系統の統一や精神教育といった将校団の団結を深める場でもあった。また、兵舎等が軍人直喩により「質素倹約を旨と」した官有の建造物であったのに対し、会議所は装飾や娯楽設備の設置がある程度自由に認められている代わりに、それらの費用は自費で賄う性質の建物であったことが明らかとなった。

3－2．陸軍将校の集会施設

将校を利用主体とした施設には将校会議所の他に偕行社の集会所がある。偕行社は陸軍将校の修養組織で出版物の編纂や軍備品の販売を行っていた。ほぼ、各師団に一つの割合で集会所を建設している。

両集会所の位置付けの違いが偕行社記事に明記されている。それに拠れば駐屯地の将校集会所は各連隊将校団の団結・教育を目的としたのに対し、偕行社集会所は各将校団相互の連携を狙った物だった。

建築的には、現存する偕行社はそれぞれ特徴的な装飾を持ち異なる外観を持つが、第１１師団のあった善通寺の偕行社は陸軍営繕組織の設計とされているため各連隊の将校会議所との共通点も多い。

横長な平面で入口付近に応接室が有、広間を持ち便所や炊事室などを別棟にしている点などは将校会議所でも同じ構成である。また、外観の窓の装飾や全体的に簡素な構成も酷似している。

指導教員　伊藤　洋子 教授

4．各対象建物についての考察

将校会議所

4－1．高田駐屯地

名称：旧砲兵第十九聯隊将校会議所

所在地：新潟県上越市

建設年代については、第十三師団が高田に入城した時点の明治４１年ごろとする物とそれ以前の明治３９年とするものがある。その後、野砲兵第十九聯隊の将校会議所として集会や食堂として利用されていたとされる。平成４年に郷土史料館として開放されるまでの詳細な用途の変遷は不明である。全体構成は梁間５間、桁行１８．５間の木造平屋建てで、イギリス煉瓦積の基礎、ドイツ下見の外壁、寄棟洋小屋トラス屋根となっている。

本建築物は建設から１００年近くを経て、幾多の改修で変更点も少なくないが、現在でも内観・外観ともにかつての面影を強く残している。外観については、創建当初の姿をほとんど残しており、大きな変更は１９８８年度の改修で屋根が瓦から鉄板へと葺きかえられた点である。さらに内観については、平成４年度の郷土館への用途変換を目的とした改修によって展示室部分の間仕切りが大幅に変更されている。

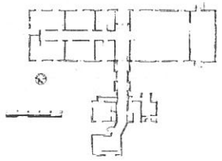


図１ 高田駐屯地復原平面図

図２ 高田駐屯地外観

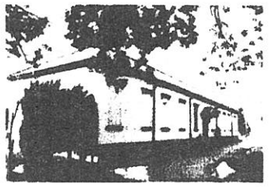
4－2．　福知山駐屯地

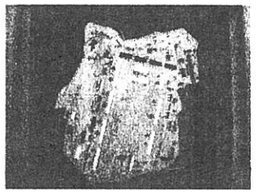
名称：旧陸軍歩兵第二十聯隊将校会議所

所在地：京都府福知山市

本建造物は明治３１年旧陸軍駐屯地発足と同時に歩兵第二十聯隊の将校会議所として建設された。戦後は米軍の接収後、一時国鉄の所管となっていたが、自衛隊が駐屯し、昭和４１年から史料館として開設されている。外壁に土瓦の上にモルタルを塗った、耐火性を考慮したものであることは、ほかに例を見ない特徴的な構成となっている。

内観については仕上げやモールディングの除去が行われているが、間仕切りなどは当初のままであることが分かった。会議室と逆側の部屋は現在一室として使用している。外観については、一部窓位置や出入り口など開口部の変更がされている。また、陸軍時代には背後に外廊下で連結された棟があったことがわかっているが、現在は撤去されている。





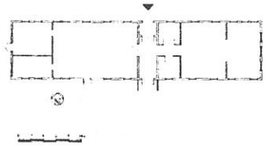


図３　左上：福知山史料館外観
図４　上：陸軍時代の配置図
図５　左：現状平面図

連隊本部

4－3．青森駐屯地

名称：旧歩兵第五聯隊本部

所在地：青森県青森市

本建造物は明治９年の歩兵第五聯隊発足の折、同１１年に新築された。戦中にも幾度の改築を受けている。終戦後、占領軍宿舎や現青森高校の教室・教員用宿舎として利用されていたが、昭和４３年、市の史跡保存会によって現在地に移築されている。現在は陸上自衛隊の広報部門の一施設として使用されている。

この建造物にもっとも大きな改変が為されたのが移築時であり、まず桁行が２７間から１５間へと縮小されるとともに階高が変更され、外壁の塗装も薄紅色に変更されていることが青森高校時代の写真から明らかとなった。また雁木も現状では建物前面部分を覆っているが、移築前は左端から左側ポーチ部分までの範囲に留まっていたと思われる。以上のように現在の聯隊本部は移築時に大幅な改変を受けており、全体的な規模や外壁などの雰囲気は移築前のものと比べて大きく異なってしまっている。

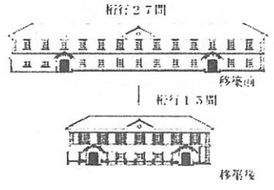


図６ 移築前後の連隊本部

図７ 旧連隊本部現状

５．各施設の比較

５－１．平面比較

プランの構成は、主要部が各々幅５間ほどの長方形のほぼ正面に入り口を設け、建物を横断する廊下の脇に１０㎡ほどの小部屋を前後に配置、奥に小さく仕切られた部屋があり、廊下の逆サイドには将校会議室や集会室と称された大部屋がある、さらに奥には、用途は不明だが、集会室と連続し、尚且つ独立した出入り口を持つ部屋が並んでいる、といった共通点が挙げられる。また中央廊下奥には正面と同規模の裏口があり、水回りや倉庫などを中心とした居室以外の用途を持つ別棟と渡り廊下で繋がれている。これらは部屋の大きさや間仕切りの違いなどの点で差が見られるが、概して類似の構成となっている。加えて正面、あるいは裏手に整備された庭を持つ例がいくつかあり、これらが駐屯地全体の最奥や高台といった特別な場所に、隔離されて立地している。

５－２．仕様比較

各将校関連施設の仕様を比較するとモールディングや仕上げなどの細部で違いが見られるものの、全体的にみると統一的であることが分かる。つまり装飾的には連隊本部が平巾木であったり面取りがないのに対して、将校会議所では、師団司令部などの他の陸軍施設ほどではないにしろ、丁寧な細工が見られる。開口部はいずれもモールディングの施された額縁が設けられ、当初は上げ下げ式であったと思われる。

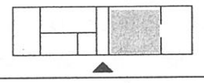
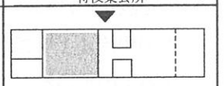
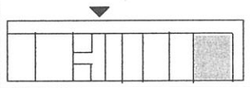
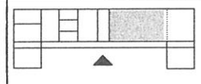
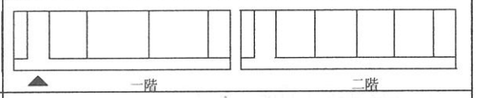
また、構造的には連隊本部が桁行を縮小されて移築されていたり、部屋を桁行方向に連続して配置されていたりと、反復性が強いのに対して、将校会議室では中心の存在る定型に抽象化されうることが特徴的である。

６．結論

以上見てきたように将校会議所は統一的な外観を示し、またプランや全体計画にも一定の方向性が見出されることが分かった。それは高田の将校会議所に代表されるように長方形のプランに受付的な小部屋を二部屋と会議室を共通に設けたものであった。これらは兵舎や師団司令部でも指摘されているように標準仕様書の存在を示唆するものであるが、現物を確認するまでには至っていない。また、福知山の外壁仕上げが耐火性を考慮したものであることや、信太山や都城のようにテラスをもつものがあるように、ある程度の地域性や工夫が認められたことは実際の施工には地元の大工達が当たり、ある程度の逸脱が許容されており、仕様書は厳格な履行を強要するものではなかったと言えよう。

これら将校会議室や集会所が駐屯地内でも好立地であることは、師団司令部やその周辺に展開する部隊とは対照的に、連隊が単独で駐屯する場合には隊内で最高位の建築になる可能性があったことを示し、それは周辺部に庭を配し、独立した格好をとり、皇族や高官が来営した折には休憩所や宿泊所として利用されていたことからも察せられるのである。また、それだけに都城の例に見られるように改造の対象とも成り得、高田や福知山が将校会議所としての原型と思われるような構成であるのに対して、北白川宮成久王の仮住居として使われていた信太山や、昭和天皇の行幸時に休憩所として使われた都城は、独自の意匠や構造を持つものと思われるのである。また連隊本部と将校会議所の構造的な違いについては、連隊本部が兵舎等と同じように連隊規模の増減を見越したものであると考えられるのに対して、集会所はある定の使用人数を想定した施設であったと考えられる。その利用形態は一般に言われるように将校の親睦のためであったであろうし、一部に出版物を編纂した将校会議室もあったことから事務所のような機能を併せ持っていた可能性もある。

表１　各施設仕様比較表

県名		石川県	京都府	新潟県	宮崎県	大阪府	青森県
現在所属		陸上自衛隊金沢駐屯地	陸上自衛隊福知山駐屯地	陸上自衛隊高田駐屯地	陸上自衛隊都城駐屯地	陸上自衛隊信太山駐屯地	陸上自衛隊青森駐屯地
当初所属		旧陸軍野戦砲兵第九連隊	旧陸軍歩兵第二十聯隊	旧陸軍野砲兵第十九聯隊	旧陸軍歩兵第二十三聯隊	旧陸軍野砲兵第四聯隊	旧陸軍歩兵第五聯隊本部
建設年代		明治３１年	明治３１年	明治４１年建設	明治４１年	大正８年	明治１１年建設
現在所在地		金沢市出羽町	福知山市字天田	上越市南城町	都城市久保原町	和泉市伯太町	青森市浪館近野
当初所在地		同上	同上	同上	同上	同上	同筒井
当初用途		将校集会所	将校集会所	将校会議室	将校会議室	北白川宮成久王住居・将校会議所	連隊本部
平面形状（部屋構成は現状） 会議室、集会所として使用							
規模		３４５㎡	３４６㎡	３０５㎡	４３２㎡		
屋根（葺状・形状）	現状	寄棟造・桟瓦葺	寄棟造・桟瓦葺	寄棟造・セメント瓦葺 テラス：カラー鉄板葺	寄棟造・桟瓦葺 エントランス部：切妻造・一文字	寄棟造・桟瓦葺 エントランス部：切妻造・スレー	寄棟造　瓦
	復原	寄棟造・桟瓦葺	寄棟造・桟瓦葺	寄棟造・桟瓦葺	寄棟造・桟瓦葺 エントランス部：切妻造・スレー	日差しとペディメント、雁木（コンクリート布基礎の上に木の台）とポルティコ、カラー鉄板	寄棟造　桟瓦
外壁	現状	モルタル仕上げ	土瓦の上モルタル塗ペンキ仕上げ	ドイツ下見板壁（塗装なし）	一般外部：下見板張り・漆喰塗り テラス：漆喰塗り	モルタルリシン吹付け仕上	寄棟造　桟瓦
	復原	漆喰塗り	不明	丸釘のため補修後と考えられるが聞き取りでは同じ形状だった	一般外部：下見板張り・漆喰塗り テラス：漆喰塗り	羽目板張り	板のハス張り
基礎部	現状	煉瓦積み・オランダ式	煉瓦積布基礎・イギリス式	レンガ布基礎・換気ロアーチ形状	既存部分：石積み 増築部分：鉄筋コンクリート	煉瓦積・イギリス式	板のハス張り
	復原	煉瓦積み・オランダ式	煉瓦積布基礎・イギリス式	同上	既存部分：石積み 増築部分：鉄筋コンクリート	煉瓦積・イギリス式	レンガ布基礎　上に切石土台
柱基礎部		不明	コンクリートブロック	基礎上に土台 （土台は添い土台）	不明	ベランダ部分：東石	レンガ布基礎
天井仕上げ	現状	竿天井	漆喰塗り、ビニールクロス	集会室　板張りペイント仕上げ/他は吸着ボード	化粧石膏ボード張り、漆喰塗り、板張り	折上げ天井、漆喰塗	ポルティコ及び玄関の柱は切石ソバン独立柱
	復原	不明	不明	同上　塗装仕上げ（後原は同左）	不明	折上げ天井、漆喰塗	1F　廊下　吸音ボード　居室　合板仕上げ、ペイント仕上げ 2F　吸音ボード　一部合板仕上げ、ペイント仕上げ居
天井廻縁	現状	二重回縁：サイマリヴァーサ・フィリット （廻縁部分に換気口あり）	二重回縁：カヴェット型モールディング	二重廻り縁 （カヴェット型モールディング）	なし	二重回縁：フィリット・トーラス型	不明
	復原	二重回縁：サイマリヴァーサ・フィリット （廻縁部分に換気口あり）	二重回縁：カヴェット型モールディング	壁と同時期にペンキ（茶色）塗り	不明	二重回縁：フィリット・トーラス型	1F 廊下　２階と同じ　居室　長尺モールディング 一部　長尺モールディング
床材	現状	板張り	杉荒板張り		居室：板張り テラス、玄関、廊下：縁広板張り	縁広板張り	不明
	復原	板張り	杉荒板張り	中古：縁広板、当初：ソギ板		縁広板張り	1F　廊下　長尺パーケット　居室ビニールシート（クッションフロア） 2F　板床　梁行方向
床仕上げ	現状	絨毯敷き	絨毯敷き、Pタイル貼り、カーペット敷詰	長尺カーペット（建物は主域）	ビニル床シート貼り、カーペット敷き、モザイクタイル張り	塩ビタイル、モルタル仕上、カーペット張り、縁広板張り	1F廊下　石敷き
	復原	板張り	不明	中古：縁広板、当初：ソギ板	不明	縁広板張り	1F　同上　2F　同上
室内壁仕上げ・腰壁	現状	漆喰塗り	木目柄のプリント合板、腰壁：板の竪張り、ペンキ塗り	漆喰にペンキ塗り	腰壁：板張り、タイル張り 腰壁上部：漆喰塗り、ビニルクロス貼り	腰壁：羽目板張り 腰壁上部；漆喰塗、吹付タイル	不明
	復原	漆喰塗り	漆喰塗 腰壁：板の竪張り、ペンキ塗り	白漆喰壁	不明	腰壁：羽目板張り	一階廊下突版合板仕上　居室　ビニールクロス貼 2F　プリット合板（腰壁区別なし）、一部ビニールクロス貼り（階段踊り
扉	現状	木製片・両開き戸	木製片・両開き戸	桟つき扉（中古）、一部サッシ扉	アルミ、木製片・両開き戸	木製片・両開き戸	
	復原	木製片・開き戸	木製片・両開き戸	デザインは桟つき扉（現状）とほぼ同じ	木製片・両開き戸	木製片・両開き戸	2F　中古扉、ガラス窓付き
開口部装置（窓）	現状	木製化粧額縁付上げ下げ窓 （一部アルミサッシュ）	木製化粧額縁付引き違い戸 （アルミサッシュ）	サッシの引き違い窓	木製化粧額縁付引き違い戸 （アルミサッシュ）	木製化粧額縁付引き違い戸	不明
	復原	木製化粧額縁付上げ下げ窓	木製化粧額縁付上げ下げ窓	上げ下げ窓（ワイヤの中に分銅の入った窓）	木製化粧額縁付引き違い戸	木製化粧額縁付上げ下げ窓 （痕跡による）	1F　ガラス上げ下げ窓　2Fガラス上げ下げ窓
巾木	現状	面取りなし	銀杏面取り、	銀杏面取り	不明	銀杏面取り	木製化粧額縁付上げ下げ窓
	復原	不明	銀杏面取り、	銀杏面取り	不明	銀杏面取り	1F　平巾木　2F平巾木

主要参考文献

「高田既設建物現況調査検討」　九建設計東京支社　2004年

「青森広報展示施設現況調査報告」　八洲建築設計事務所　2003年

「歩兵第五聯隊史」帝国聯隊史刊行会編　1918年

「歩兵第二十聯隊史」帝国聯隊史刊行会編　1921年

アジア歴史センター所蔵「陸軍省大日記」

「帝国陸軍将校団」浅野祐吾　1983年